食生活を豊かに――
円滑な流通供給に努める
丸水秋田中央水産株式会社
〒010-0802　秋田市外旭川字待合28番地
電話 018-868-5311番代
FAX 018-868-1931
http://www.marusui-akita.co.jp/
e-mail:a.scumui@marusui-akita.co.jp

みなと新聞電子版
www.minato-yamaguchi.co.jp/
お申込みはホームページから

日刊 みなと新聞
1月19日 月曜日
2015年（平成27年）
発行所
みなと山口合同新聞社©
〒750-8506下関市東大和町1丁目1-7
☎083(266)3214 土曜・日曜・祝日休刊

大阪木津地方卸売市場
大阪木津市場株式会社
生産者の想いを形に
代表取締役社長 桑原浩
取締役営業統括 渡壁保秀
大阪市浪速区敷津東3丁目6番16号　電話06(6649)4711

スルメイカTAC4割増

漁業者 資源増加に懐疑的

水産庁が提案

「スルメ資源は変動しやすい」と水産庁の坂課長

水産庁は16日開いた意見交換会で、2015年漁期スルメイカTAC（漁獲可能量）を前年より4割増の42・5万㌧とする案を示した。秋季発生系群の資源が過去最高となった調査結果などから提出したが、漁業者から「実際の漁獲はがっていない」との発言が相次いだ。

国内で漁獲されるスルメイカは、秋に発生する秋季発生系群と冬に発生する冬季発生系群の2つに大別される。水産庁が行った秋季発生系群の調査結果によると、資源量推定値は過去最高の234・5万㌧。冬季発生系群も中位水準で資源状態は安定しているとされる。

一方で、全国いか釣り漁業協会や岩手、青森県の漁業者らは「現実の漁獲が少ない。資源量がそんなに多いと聞いても納得できない」と漁獲の伸びに疑問を投げかけた。

水産庁の担当者は「TACは、今回の議論を踏まえ、2015年漁期スルメイカABC（生物学的許容漁獲量）を算出する際に、「漁獲を取り残す懸念」「産卵親魚量の維持」「産卵親魚量の増大」などを目標（シナリオ）として設定する際、ABCを基に設定する。今回のABCは、秋季発生系群と冬季発生系群とに「親魚量の維持」が目標、さらに予防的措置として、計算上の値を2割削り、秋季は40・2万㌧となっている。

TACは、今回の議論を踏まえ、2015年漁期スルメイカABC設定に反映させる。AB Cや今後募集するパブリックコメントを踏まえ、2月中旬に開く水産政策審議会資源管理分科会で正式に決まる。

米ベ海スケソウ

生産者が値上げ要求

対日すり身 円安が重しに

Aシーズン20日幕開け

【シアトル】米アラスカ・ベーリング海漁の今年Aシーズンのスケソウダラ漁が開幕する。産者は生鮮品の値上げを前提に取引先の交渉を開始。すり身は世界的な需給逼迫（ひっぱく）で米国建てでの上げ幅修正を求める。中国の生産者には200

水揚の日本側は一段の円安進行で育幅を前小限にとどめたい考え。スケ会は今年、製品ごとの需トミックス戦略を進める大型サイズ（600g以上）で1000～1650㌦を要求。ともに前年比3%増の1万3100㌧を開始。ロシアは同5%増の1万2万㌧で決定している。アラスカの生産者には2003

6年、08年、10年、12年0.7㌔台のトン3300㌦を唱える。一方、中国加工向け主体のドレス（H&G）製品はロシアの割合が比較的多く、前年比シ（同）が影響。為替相場

アラスカの加工場（スケソウ・Qドフィレーの生産ライン）

比4割弱も下落した。米価を引き下げた国産品質確では前年対比で採点を問へ大型で操作できる機図ロシア側の出方も焦点になっている。

毎年移動する旧正月（春節）の時期も懸念材料のひとつだ。中国の加工業者は一場生産の稼働が止まる旧正月までに成約を急ぎ在庫を抱える必要がある。今年の大型連休は2月18～23日と例年に比べ長く、2次加工業は静観の構えという。

（6面に続く）

「かまぼこ900年」のぼり登場！

豊島蒲鉾の山口社長デザイン

全蒲連

かまぼこ900年のぼり旗。豊島蒲鉾（福岡市）の山口美晶社長の発案で、2月初旬から全国蒲鉾水産加工業協同組合連合会（全蒲連、鈴木博信会長）に配布。各産で掲げ「かまぼこ900年」をアピールする。イベントなどでも活用。ピンバッジも同節目に当たることから時期に配布するなど浸出を図る。

キーワードに需要を掘り起こす。

のぼりは海と太陽をモチーフにしたダイナミックなデザインが特徴。豊島社長の手によるもの。

加工業者は「かまぼこ900年」をアピールする。イベントなどでも活用。ピンバッジも同節目に当たることから時期に配布するなど浸出を図る。

「かまぼこ900年」を唱える。

MUGEN「売れ残る魚」有効に

丸の内 飲食「魚治」が昼夜営業

その日仕入れた魚が並ぶ

魚をもっと有効に食べてもらおうと、5日、一「魚治」が昼夜ともに営業を開始した。同店は築地市場で廃棄される魚を有効活用する「築地もったいないプロジェクト」の第1弾としてオープン。「居酒屋チェーンを展開するMUGEN（内山正宏社長）が運営する。

仕入れのメーンは山治正宏社長。根魚や、鰯、旬を外れているなどの理由で売れ残る水産物を買い付ける。内山社長は「築地で年間何十億円も捨てられる」と強調。

内山正宏社長

廃棄を減らすことに加え、仲卸の商売のチャンスにつながれば期待を込める。

仲卸以外は、かいせい物産（宮崎成人社長）と大震災で販路を失った生産者からの仕入れも実施。南三陸産のホヤはホヤキムチ（580円）として販売する。被災地でも、市場に出回らない未利用魚の取り扱いも進めていきたいとして

メニューは、その日の仕入れに合わせて変える。「安かろう悪かろうでは意味がない。おいしさもプラスしていかないと」と内山社長。ハマグリを使ったお造りやノドグロの煮付けなど、毎日違った味わいを楽しめる。

「もったいないの精神は食材だけではない。店員が着る服は楽なら廃棄される布の切れ端で作る。今後は学生など一般客にも広く来店してもらいたい」と話す。

営業時間は17時～翌3時。問03-6269-9009

新社長にヨハソン氏

マルハ米ウエストワードシーフーズ

【シアトル】マルハニチロ傘下で同社グループで米国に拠点を置くウエストワードシーフーズの社長に、マーク・ヨハソン副社長兼ネプル・マネージャーが

大野悟朗新社長

新社長に大野常務

岐阜魚市

大野悟朗（おおの・

ゼロ関税で 水産物集中搬入

昨年末、台湾から中国へ

昨年1月から5月15日までの5カ月半で、中国厦門（アモイ）に台湾から1年分の輸入量に匹敵する水産物が集中搬入していた。中国メディアの中国青島新聞は「中国と台湾の2カ国間の自由貿易協定（海峡両岸経済協力枠組み、ECFA）を受けゼロ関税による食品などが「中国」大陸の消費者を直撃せた」と報じている。

中国の厦門東渡港には、昨年のこの期間、台湾からサンマや冷凍イカ、スッポンの約5千万～10万㌧が入荷、1～10月の輸入量は前年同期比7倍に急増。

先進的技術と経験が中国大陸での魚介の養殖を広めるため、台湾生まれの養殖業者が中国国内の水産加工業者を招き、台湾からの技術指導を受けた。台湾からの冷凍イカ輸入量は前年同期比10倍に急増。

スッポン養殖は台湾の養殖業者が中国大陸に進出し、若い人を育てるなど、台湾の技術と経験が中国の養殖業の底上げに貢献した。

中国国内の水産加工業者も拡大を受け、